

アメリカ合衆国大統領
バラク・H・オバマ 殿

2010年10月14日
全日本教職員組合（全教）
千代田区二番町1-2-1
Tel 03-5211-0123

米国の未臨界核実験実施に抗議する

「核兵器を使った唯一の核大国としての道義的責任」を明らかにし、「核兵器のない世界を追求する」と世界に向けて発言したオバマ大統領に、ノーベル平和賞が贈られて1年、貴職の米国がついに未臨界核実験を強行したことに嚴重に抗議する。

米国の代表は、ことし5月のNPT再検討会議でも、他の締約国とともに最終文書に賛成した。同文書が、核兵器の削減・廃絶の必要を強調し、「開発と質的改良」の停止を求めたことは周知のとおりである。

核実験の強行は、それが爆発実験であれ未臨界実験であれ、「核兵器のない世界」への国際的努力に逆行するものであり、他の国に対しても新たな核兵器の開発、拡散の放棄を求める米国自身の道義的立場を掘り崩すことになることは明らかである。

貴職は、プラハでの発言とノーベル平和賞の荣誉に、責任を負うべきである。「核兵器国は、核軍備削減・撤廃に至る具体的な進展を促進することを約束する」とのNPT再検討会議の最終合意文書を誠実に実行し、今後いっさいの核実験計画を廃棄し、核兵器全面禁止のすみやかな実現に努力するよう、要求する。